

令和6年度政策形成実践研修

(短期集中研究会：10月10日～11月19日)

「未来へつなぐ」ふるさと “まるごと”体験事業

(提言先：棚倉町)



Bグループ

(柳沼星良、小瀧和浩、鈴木翔也、古内伸幸、石渡伸朗)

「未来へつなぐ」ふるさと“まるごと”体験事業

5,031千円

Bグループ

事業目的 ①中学生が将来の居住地としてふるさと(東白川郡の各町村)を選ぶきっかけづくりをする
②地域資源であるルネサンス棚倉の魅力を知る ③広域的なつながりを深める(周辺中学校、修明高校、役場)

事業概要 対象者：棚倉中学校、塙中学校、鮫川中学校、矢祭中学校の2年生全員(計251名)及び保護者等
会場：ルネサンス棚倉(1泊2日)



目次

- 1 事業目的
- 2 事業概要
- 3 実施体制
- 4 スケジュール
- 5 予算概要
- 6 まとめ

事業目的

- ①将来の居住地として、ふるさと(東白川郡)を選ぶ
- ②地域資源であるルネサンス棚倉の魅力を知る
- ③広域的なつながりを深める

棚倉町の資源

・ルネサンス棚倉



・フィールドホッケー



・棚倉城跡（亀ヶ城公園）



- ・ルネサンス棚倉は、**地域の人々の利用が少ない**
- ・県内唯一の**フィールドホッケーの聖地！** → **知名度が低い**
- ・棚倉城は令和7年で**築城400年**

棚倉町の資源



- ・日本ホッケー協会からホッケータウンに認定（**第1期**）
- ・大会実績：R6 棚倉中学校男子ホッケー部 **全国ベスト16**
R5 修明高校男子ホッケー部 **東北第3位**
- ・町内の小学生はインドアホッケー大会で**全員**ホッケーを経験

棚倉町の教育施設

○小学校（4校）

- ・ 棚倉小学校
- ・ 社川小学校
- ・ 高野小学校
- ・ 近津小学校

東白川郡で進学先の選択肢が1校しかない

= 周辺地域の高校に流れていきやすい

地元に残ってもらうには…



地域の魅力を伝えていく必要がある

○中学校（1校）

- ・ 棚倉中学校

○高校（1校）

- ・ 修明高校 ※東白川郡で1校のみ



ヒアリング調査実施

以下の3か所にヒアリングを実施

① 棚倉町役場 地域創生課

→ 中高生に対する取り組みについて

② ルネサンス棚倉

→ 利用内訳と実施プログラムについて

③ 修明高校

→ 学校で実施している取り組みについて

ヒアリング調査結果

① 棚倉町役場 地域創生課

- ・ 中高生を対象として**行っている事業が少ない**
- ・ 特に20~29歳の**女性の人口流出が課題**
- ・ **中高生対象の事業に力を入れていきたい**



ヒアリング調査結果

第7次棚倉町振興計画策定のための
中学生アンケート調査結果報告書



(2) 調査対象及び調査方法、回収結果

項目	内容
調査対象	棚倉中学校の生徒全員
配布数	401
調査方法	WEB方式(学校で調査票を配布し、回収はWEBによる回答・返信)
調査時期	令和5年6月
有効回収数	367
有効回収率	91.5%

ヒアリング調査結果

図表2 今後の定住意向（全体・性別・学年・居住地区）

		住みたい	どちらか といえば 住みたい	どちらと もいえな い	どちらか といえば 住みたく ない	住みたく ない	無回答	n
全体		14.2	18.3	43.3	14.7	9.3		367
性別	男性	18.9	20.0	42.1	11.6	7.4		190
	女性	9.4	17.1	45.3	17.6	10.0		170
学年	1年生	19.9	24.1	43.3	6.4	6.4		141
	2年生	11.7	12.6	48.6	15.3	10.8		111
	3年生	9.6	16.5	38.3	24.3	11.3		115

ヒアリング調査結果

②ルネサンス棚倉

- ・ 利用者の7割は**団体**
- ・ **他県**の利用者が多い
（**地元の中高生の利用が少ない**）
- ・ **官民一体の取組で地域とのつながりを持ちたい**
- ・ **ホッケー場は稼働率が高い**



ヒアリング調査結果

③修明高校

- ・ 在校生の**5割以上**が東白川郡在住
- ・ 「**修明笑店**」を実施し、食品を販売している
- ・ 生徒の**8割程度**は「**地元に残りたい**」
- ・ 地元の**就職先の選択肢が少ない**



課題

- **中学生**の今後の定住意向が定まっていない
- ルネサンス棚倉の**町民利用が進まない**
- **広域的なつながり**が希薄

事業概要

(1) 対象

東白川郡内の中学2年生及びその保護者

- ・ 棚倉中学校
- ・ 埴中学校
- ・ 鮫川中学校
- ・ 矢祭中学校

事業概要

○中学2年生を対象とした理由

- ・ 中学1年生は進路選択をする時期には早い
- ・ 中学3年生は受験等の時期のため負担が大きい

事業概要

(2) 内容 1泊2日の体験学習

(1日目)

体験① 地域の良さを**共有する**

体験② 大ホッケー大会で**交流する**

体験③ お祭りイベントで**感動する**

宿泊場所 ルネサンス棚倉

(2日目)

在住町村以外を見学



体験① 1日目・午前

『地域の良さを共有する』

- ・グループごとに町の良さを考えて発表
- ・総合学習の授業で事前学習



棚倉町文化センター(倉美館)

体験② 1日目・午後

『大ホッケー大会で交流する』

- ・ ルネサンス棚倉のホッケー場を活用
- ・ 学校混合でチームを組む
- ・ 大人チーム（修明高校ホッケー部、教員等）



体験①・② 優秀賞・参加賞

- ・ 優秀賞：東白川郡の特産品詰め合わせ
- ・ 参加賞：夜の屋台で使用出来るチケット



体験③ 1日目・夜

『お祭りイベントで感動する』

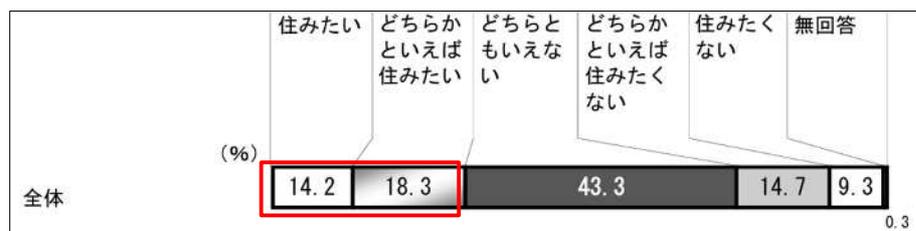


- ・ 棚倉城跡で屋台、キャンプファイヤー、花火大会！
- ・ 地域特産品を使用したメニューを各校で発案
→ 修明高校ブースで販売



成果目標

- 中学生を対象とした定住意向アンケートで、
「住みたい」「どちらかといえば住みたい」
の割合を50%以上にする（毎年度実施）



棚倉町中学生アンケート調査結果報告書(令和5年度実施)より

現行事業との比較

○チャレキッズ（職業体験プログラム） 小学生

- ・ 棚倉町内の小学校 5、6 年生対象事業
- ・ 棚倉町キャリア教育推進の一環

現行事業との比較

○社会課題「自分ゴト化」プログラム 高校生

- ・ 福島大学地域未来デザインセンター主催
- ・ 修明高校文理探究科の生徒が参加
- ・ 棚倉町の「食」と都市部の関わりについて探究

他自治体の導入事例

○神奈川県中井町

「広域連携中学生交流洋上体験研修事業」

- ・中学生を対象とした**宿泊型**研修
- ・近隣市町村からの参加もできる**広域連携**事業

他自治体の導入事例

○福島県南相馬市

「巣立ち応援18歳祝い金支給事業」

- ・18歳を迎える市内在住者を対象
- ・**地域全体**で18歳の巣立ちを応援

事業がもたらす効果

共有！交流！感動！により・・・

- ①中学生の定住意向増 → 人口流出に歯止め
- ②地域資源を活用 → 地域の活性化
- ③広域連携 → つながりを深める

実施体制

事業主体

「未来へつなぐ」ふるさと実行委員会

→ 東白川郡の4町村で組織

事務局：棚倉町地域創生課

後援 各町村教育委員会

協力 棚倉中学校、埴中学校、
鮫川中学校、矢祭中学校

スケジュール

	第1四半期 (4～6月)	第2四半期 (7～9月)	第3四半期 (10～12月)	第4四半期 (1～3月)
R7	・第1回関係者会議 (企画)	・第2回関係者会議 (日程確定)		・サポート事業交付申請
R8	・各中学2年生へ 事業周知 ・第3回関係者会議	・第4回関係者会議 ・各校代表者選出	・事前準備 ・体験事業当日 ・アンケート実施 ・第5回関係者会議 ・サポート事業実績報告	

※R7にお試しで実施(日帰り企画)

予算概要

予算額 : **5,030,500円**

(内訳)

○宿泊代	2,042,500円
○会場費	18,000円
○出店補助	400,000円
○賃借料	1,800,000円
○その他消耗品	770,000円

予算概要

財源 : 福島県地域創生総合支援事業
(サポート事業)

4/5 4,024,400円

一般財源 1/5 1,006,100円

(内訳) 負担金 棚倉町 406,100円

3 町村 200,000円

「未来へつなぐ」ふるさと“まるごと”体験事業

5,031千円

Bグループ

事業目的 ①中学生が将来の居住地としてふるさと(東白川郡の各町村)を選ぶきっかけづくりをする
②地域資源であるルネサンス棚倉の魅力を知る ③広域的なつながりを深める(周辺中学校、修明高校、役場)

事業概要 対象者: 棚倉中学校、塙中学校、鮫川中学校、矢祭中学校の2年生全員(計251名)及び保護者 等
会場: ルネサンス棚倉(1泊2日)

1 日 目	<p>地域の良さを共有する (1日目・午前)</p> 	<p>大ホッケー大会で交流する (1日目・午後)</p>  <p>各学校 混合チーム</p>	<p>お祭りイベントで感動する (1日目・夜)</p> 
2 日 目	<p>地域の良さを体感する (2日目)</p> 	<p>実施主体: 「未来へつなぐ」ふるさと実行委員会(東白川郡の町村で組織) 財源: 県サポート事業(4/5)、各町村負担金(棚倉: 約40万、他3町村: 20万)</p> <p>事業効果 ①中学生の定住意向増 → 人口流出に歯止め ②地域資源を活用 → 地域の活性化 ③広域連携 → つながりを深める</p>	

まとめ